

みまもり安否確認通報システム 導入提案書 (有)インターフェース

■はじめに■

自治体で設置・運用されているボタン型の緊急通報システムは全国的に普及していますが、利用率は10%以下です。

このシステムの問題点はボタンを押すことにあります。

お年寄りは「ボタンを押す」と迷惑を掛けると言うことで殆ど押しことはしません。

日本には「遠慮の文化」があるため全国の自治体は皆同じ状態です。

お年寄り宅の通報スイッチは箆笥の中に大事にしまってあったり、壁に掛けたままになっていると言うのが殆どです。

「ボタンを押すことへの遠慮感、いざという時の不安感」が利用率を下げ、単なる「**お守り**」になっている理由です。

弊社のみまもり安否確認通報装置は上記問題を解決するためにボタン型緊急通報システムに人感センサがプラスされたものです。

このことにより24時間お年寄りをみまもることができます。

そのため、利用率は100%になります。

オプションで火災警報器を付けることも可能です。

■システム導入のメリット■

1. 導入先としてのメリット

- (1) 「みまもり安否確認通報システム」の導入先ブランド化が可能です。
- (2) 積極的な福祉政策を行っている組織としての知名度アップに繋がります。
- (3) 親・兄弟などの介護のための介護離職を減らすことができます。

2. 福祉としてのメリット

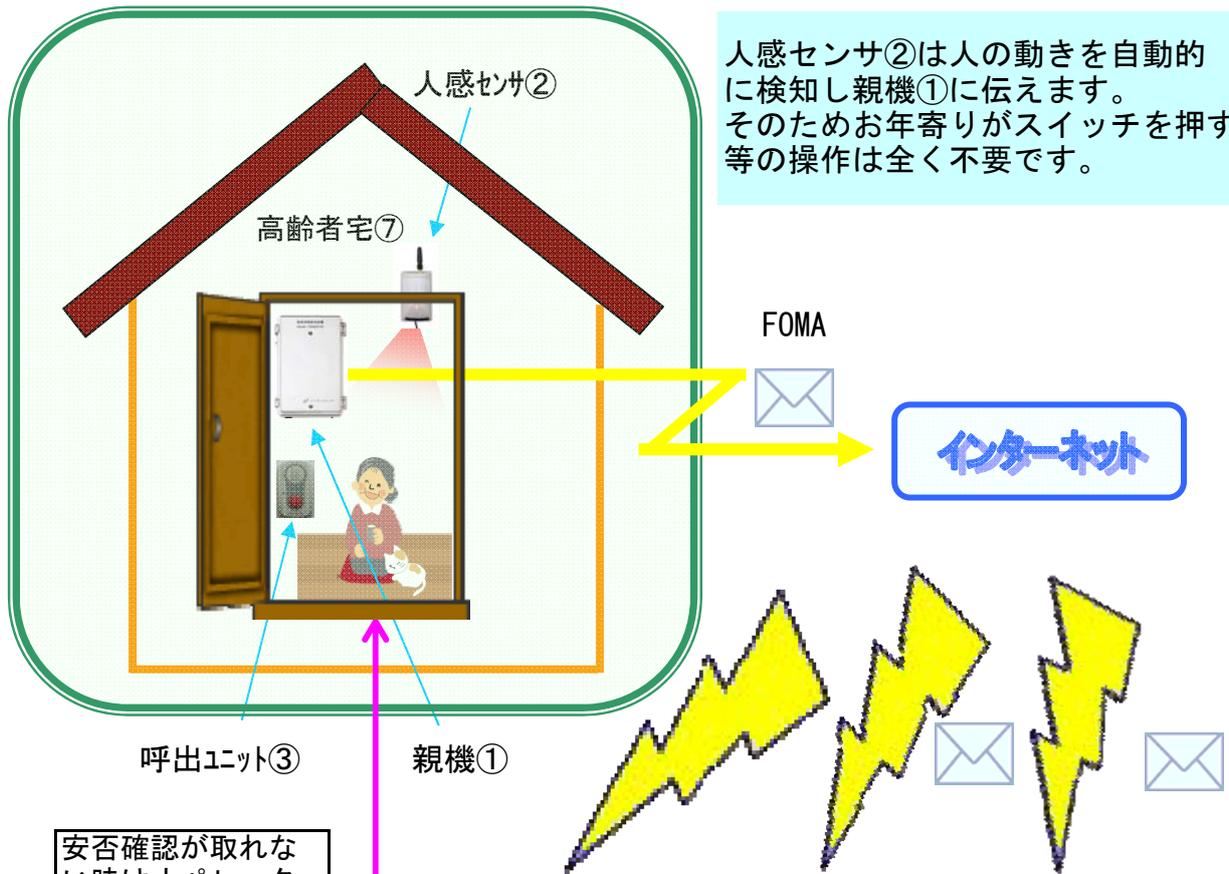
- (1) 緊急通報システムの今まで積み上げてきた人的ネットワークがそのまま使えます。
- (2) 人感センサが人の動きを自動的にとらえ通信するため、お年寄りが何もしなくても毎日の安否が遠隔地で知ることができます。**孤独死の早期発見が可能。**

- (3) お年寄りの「遠慮」の文化から「コミュニケーション」文化に脱却できます。
 - (4) お年寄りが安心・安全・便利に暮らすための様々なコミュニティーができるようになるため、福祉サービスの向上に繋がります。
3. 経済的メリット
- (1) 様々なコミュニティーができるため経済活性化に繋がります。
 - (2) 導入先はコミュニティーに参加した企業から紹介料等のサービス料を一部受け取ることができるようになります。
 - (3) システム運用のためのオペレーターが必要になるため、雇用が生まれます。
 - (4) システムの販売が可能になるため、売上が期待できます。

■オプション■

協力員が確保できない時は、お客様と弊社指定警備会社と契約を結んで頂き、弊社連絡で警備員が現地に駆けつけることができます。
(巡回警備になります)

■実施例■

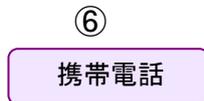


人感センサ②は人の動きを自動的に検知し親機①に伝えます。そのためお年寄りがスイッチを押す等の操作は全く不要です。

安否確認が取れない時はオペレータが高齢者宅に電話をし確認します。



オペレータ



高齢者の電話による安否確認が取れない場合は登録近親者または協力員に確認の要請をします。それでも取れない場合は契約者から消防に通報。



■ コミュニティ ■

